リリカルなのは 練習

Mr.12

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
リリカルなのは　練習

【Ｎコード】
Ｎ１２３８ＢＡ

【作者名】
Ｍｒ．１２

【あらすじ】
練習作品です。
気が向いたら連載します。

プロローグ

大勢の人達が並んだ机に座り、談笑している部屋の中で、一人の男がパソコンに向かっている。

大きい男だ、身長は１９０センチを超え体重は１００キロに近いだろう。
しかし、かといって男が太っている訳では無いことは服の上からでも分かる鍛え上げられた肉体から分かるだろう。

顔立ちは不細工と言うほどでは無いが、ひどく無骨な作りをしており、鼻の上から顔を二分する傷痕がくっきりとうかんでいる。

しかしパソコンの画面を見つめる眼はまるで機械のように冷たく、この世に興味など無いと主張していた。
初めてこの男にあった者のほとんどが、まるで石像を見たかのような印象を受けるだろう。

この様な男に好き好んで話しかける者は、僅かな例外を覗いていないだろう。

「お～い、バレットォ～。」
気の抜けたような声で、数少ない例外が男の名を読んだ。

初老の男だ。しかし、部屋の最も上座の席に座っていることが、その立場を示している。

「はい、何ですか。ゲンヤ・ナカジマ隊長。」

男がパソコンを打つのを止め、隊長と呼んだ男に向かい合う。

「お前は相変わらず無愛想だな。俺の事はゲンヤで良いって言ってるだろ。まあ、それよか仕事だ。」

人の良いオヤジといった雰囲気を引き締めたゲンヤを見てバレットは眼を冷たい光らせた。

「ミッドの南部で、ここ数日低年齢の子供の行方不明が相次いでいる、その件についての調査を『はい、2日前の午後4時に発生した年齢6歳男児の行方不明から現在までに9人の児童が行方不明になっている件ですね。』……そうだ。」

自らの上司の言葉を途中で遮りながらバレットは手際良くパソコンを閉じ、自分の荷物を纏め始める。

そんなバレットをげんなりした様子で見ながらゲンヤハため息をひとつつき、

「そうだ。お前さんにゃあこのけんの調査に行ってきてもらいたい。」

すでに準備を整えたバレットはこの言葉を聞くと敬礼し

「了解しました。すぐに向かいます。」

と言って直ぐに踵を返し部屋から出て行こうとすると、

「おい、ちょっと待て。お前に合わせたい奴がいるんだ……おいギンガ！ちょっとこっちきやがれ！！」

すぐにバレットの横にギンガと呼ばれた少女が並び、バレットに向かい敬礼しながら挨拶をした。

「この度、陸士１０８部隊に配属となりました、ギンガ・ナカジマ一等陸士です！よろしくお願いします！！」

バレットは敬礼を返しながら、

「こちらこそよろしく、ギンガ・ナカジマ陸曹。私はバレット・アイアンハート。階級は陸曹です。それで、ゲンヤ・ナカジマ隊長。彼女を私に会わせたのにはどのような理由があるのですか？」

ゲンヤはバレットの問いに対しうなずきながら

「ああ、聞いた通り、コイツはまだひよっこでな、ハッキリ言ってお前に鍛えてもらいてえんだ。」

「お断りします。」

即答だった。

それも相手が言い終わってから一呼吸も置かずにだ。まさかゲンヤも断られるとは思っていなかったため、唖然としている。

それよりも衝撃が激しいのがギンガだ。

彼女は父から自分の指導はウチの隊のエースに任せると聞かされており、身だしなみにもいつも以上に気合いを入れてこの場に臨んだのだ。

その結果がこれである。

さらに、

「彼女は将来有望な新人です、私のような者の下につけば、その才能の芽を摘んでしまいます。だれか別の者に指導させた方が良いと思います。」

遠回しではあるが、ギンガと組む気が無いことは明白である。

この言葉を聞き復活したゲンヤが怒りを抑えながら

「悪いがこれは部隊長命令だ、正式な書類もある。」

と一枚の書類を見せ、ようやく納得したのか、

「了解しました。それでは行きましょうかミス・ナカジマ。疲れたら一声かけて下さい。安全な場所で休んでいただきますから。」

と淡々と言いギンガに右手を差し出した。

ギンガは怒りで顔がどうしようもなくひきつるのを感じながらも握手に応じ、

「コチラコソ、ヨロシクオネガイシマス。」

と、普段の彼女からは考えられない声で返事をした。

続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1238ba/

リリカルなのは 練習

2012年1月3日00時56分発行